

茨高全体として生徒のやりたいことを全力で支える体制が整っている

M. S.

慶應義塾大学 文学部 人文社会学科 進学
水戸市立 石川中学校 卒業

私は国際教養コースに所属していたため、コース独自の授業を多く受けていました。哲学ではクラスメイトたちとディスカッションを進めていく中で、自分の考えを言語化して相手に伝えたり、相手の新しい意見を取り入れて考えを深めたりする機会が多くありました。協働探究ゼミでは、他学年との交流があり、各班でテーマを決めて活動を行います。私はまちおこし班として、地域の企業や協力して下さる方々に支えられてイベントを主催しました。他にもアカデミックスキルズや日本文化、プラクティカルイングリッシュなど、国際教養コースで得られる学びはとて大きく、このような経験は自信に繋がりました。多岐にわたる知識を持つことで視野が広がったり意志を持った考えができるようになったりと、大学受験の際に大きなアドバンテージになったと思います。進学指導については、様々な先生方にお話を聞いていただき、志望校を固めることができました。自分の強みを活かし、やりたいことに向かって努力できる環境を作っていただきました。受験指導を何度も経験している先生方の助言は心強いものでした。

私は部活動の仲間に何度も救われてきました。活動は週3回と比較的少ない部活でしたが、縦にも横にもつながりが深く、信頼できる友達や先生に恵まれました。引退後もお互いを支え合い高め合って受験を乗り越えることができました。文化祭やクラスマッチは、新型コロナウイルスの影響で制限の多い中でも最大限に楽しむことができました。特に国際教養コースは3年間クラスが変わらないので、イベントごとに結束力が強くなる印象でした。普段の学校生活では知らなかったクラスメイトの一面が垣間見えたり、クラス内外関わらずに初めて話すきっかけができたりと有意義な時間になるかと思えます。

茨高の生徒の意識の高さや学業や部活に取り組む姿、楽しむときのメリハリなどたくさんの刺激を受けました。視野の広がる環境に身を置くことができるのはとても強みだと思います。さらにその興味関心を育てるためにたくさんの友達や先生が協力してその環境を作ってくださいます。最初は、国際教養コースに進むことで、他ではできない経験をしたいという理由で茨高に入学を決めました。もちろん、独自のカリキュラムを学べたことや留学に行ったことなど、さまざまな経験を重ねてきて、それが自分の力になりました。しかし、3年間を過ごして、茨高全体として生徒のやりたいことを全力で支える体制が整っているのだと気づき、茨高で貴重な3年間を過ごすことができたと感じています。一貫生との関係については、国際教養コースのみが高1の段階から一貫生と高入生の交わるクラスです。私は入学式までかなり不安を抱えていましたが、ラフに話しかけてくれるクラスメイトばかりで、早い段階から打ち解けることができました。他クラスの生徒も体育や選択科目などで同じ授業を受けることも少なくないので、気負わずに話しかけることで良い関係性を築くことができるはずで。

進学後は、大学2年生で専攻を選択することになりますが、現在は人間科学専攻を希望しています。ことばやコミュニケーションを通して、「人間とは何か」ということや創発現象について学びたいと思っています。ファシリテーション能力を培い、人と人が「つながる」場を提供することが将来の目標です。高校生活での経験を大切に、まちおこしに関わる活動は今後も続けていきたいと考えています。